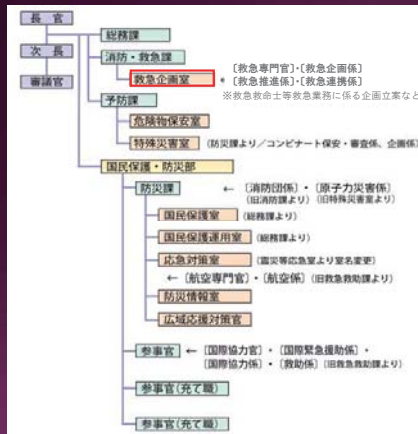


病院前救護

消防庁救急企画室
伊藤 雪絵

総務省消防庁の組織



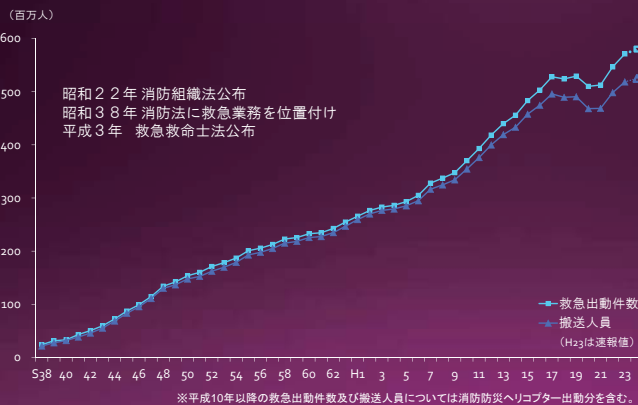
消防の階級



本日の流れ

1. 救急搬送の現状と救急を取り巻く環境
2. 課題
3. 消防庁の取組について

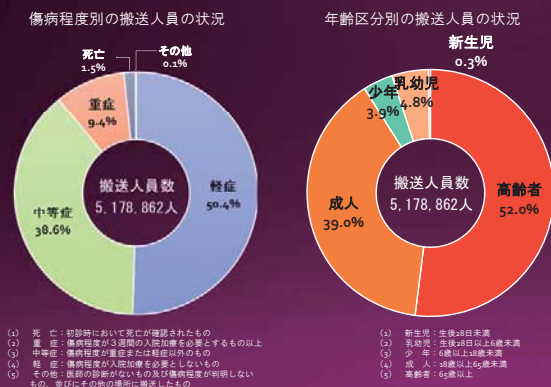
救急出動件数及び搬送人員の推移



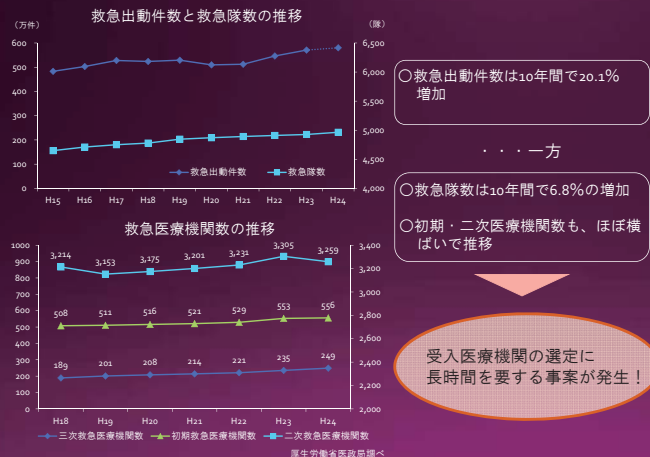
救急車の現場到着時間・病院収容時間の推移

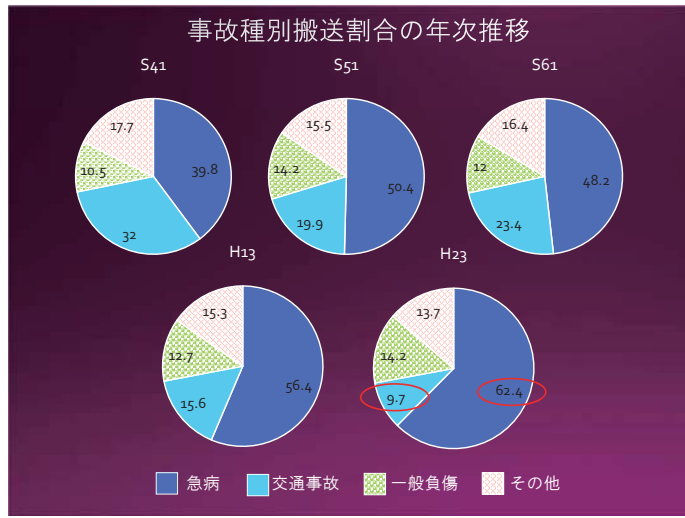
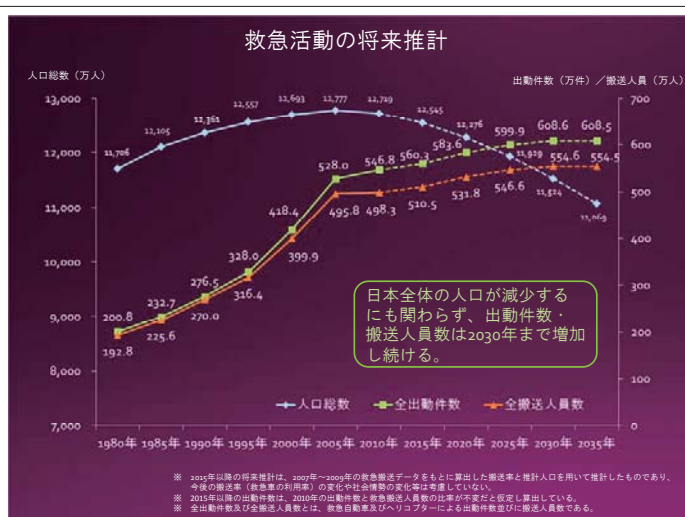
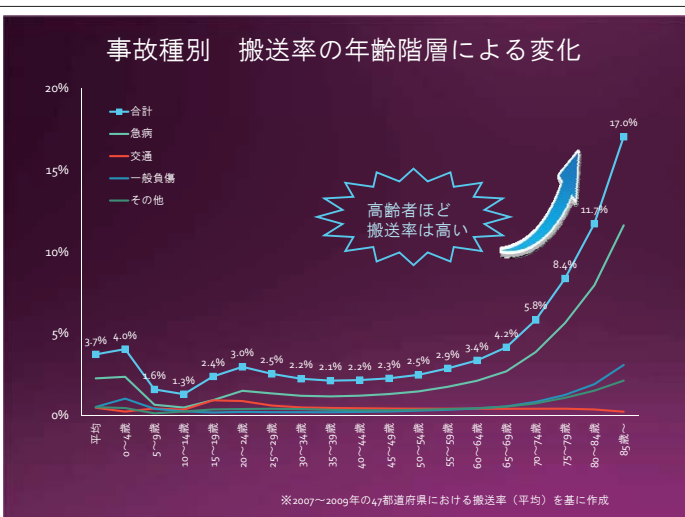
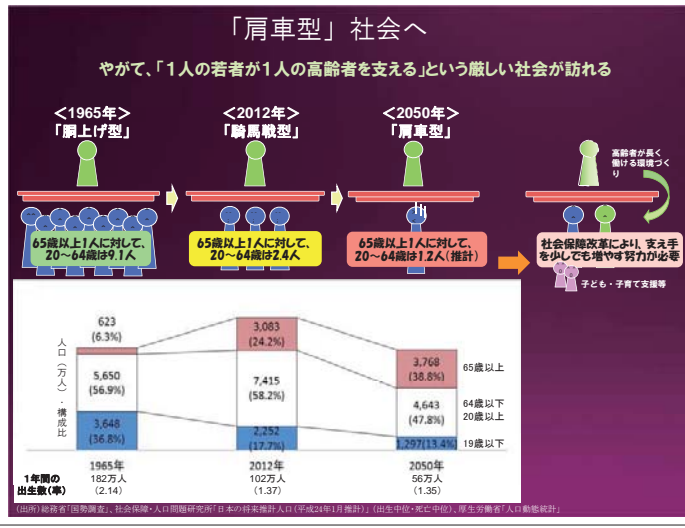
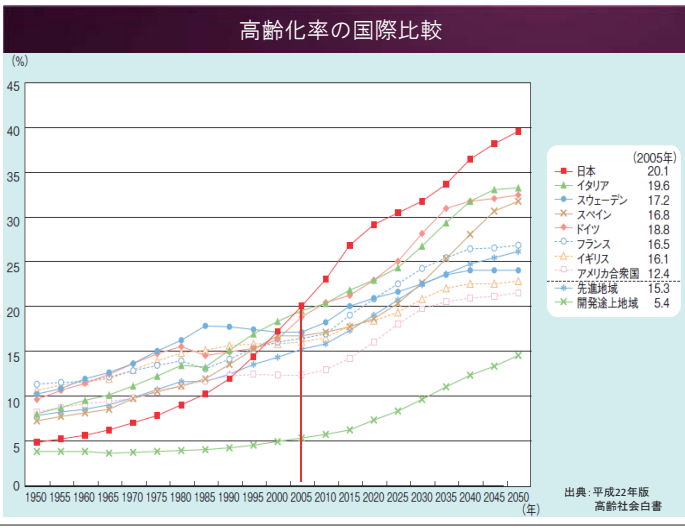
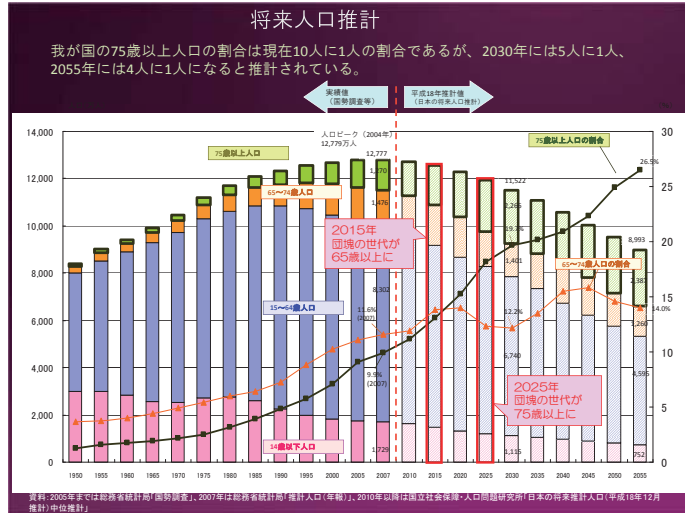
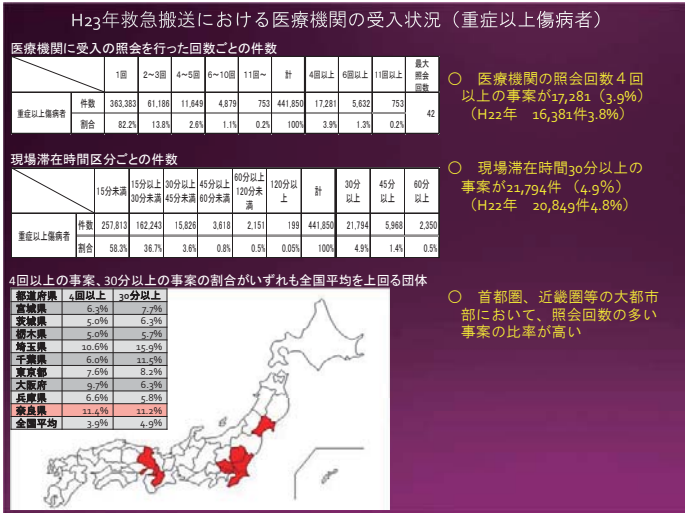


H23中の救急搬送の状況

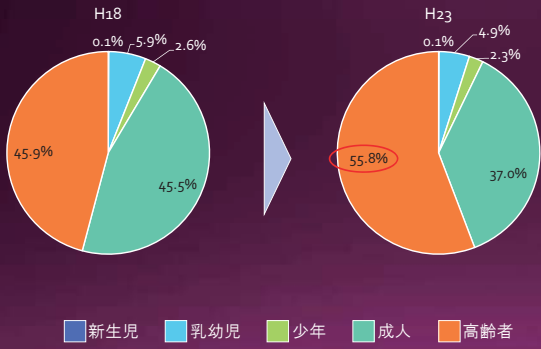


救急出動件数と医療機関数

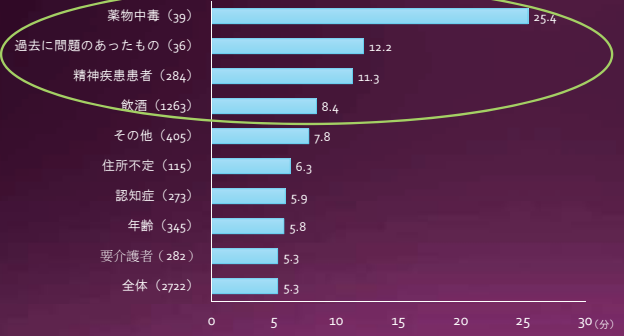




年齢区分別救急搬送割合（急病）



搬送先決定までに要した時間（大阪市）



大阪市全数調査（平成21年12月1か月間）

これまでのまとめ

- ✓ 救急搬送数は、今後も増加傾向
- ✓ 主な要因は、高齢化の進行（日本はすでに超高齢社会！）
- ✓ 国では、在宅重視の方向性 + 医療機関の機能分化促進
- ✓ 救急搬送に関わる疾病構造の変化（外傷対応から多様な内因性疾患対応へ）
- ✓ 救急隊（救急救命士）が実施する応急処置の多様化

限られた搬送資源と救急需要の増加からみた、これからの病院前救護のあり方とは？

消防法改正

消防機関 → **実施基準に基づく救急搬送及び受入れ** → **医療機関**

協議会（第35条の8）
 ・消防機関、医療機関等により構成
 ・実施基準に関する協議
 ・実施基準の実施状況に関する調査・分析等

都道府県
ルール策定

実施基準（第35条の5）

- ① 傷病者の状況に応じて適切な医療の提供が行われる 医療機関のリスト
- ② 消防機関が①のリストの中から搬送先を選定するための基準
- ③ 傷病者の状況を伝達するための基準
- ④ 搬送先医療機関が選やかに決定しない場合に、受入医療機関を確保するための消防機関と医療機関の合意形成基準

① 医療機関のリスト(例)

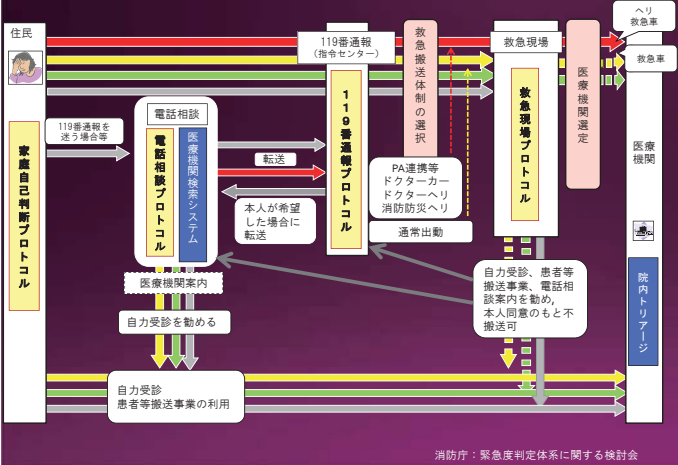
傷病者の状況	医療機関のリスト
重篤（バイタルサイン不全）	A 救急医療センター、救急医療センター
脳卒中	B 脳卒中診療センター、脳神経センター、脳神経センター
心臓病	C 心臓病診療センター、心臓病診療センター
多発性骨折	D 救急医療センター、救急医療センター、救急医療センター
その他	E 救急医療センター

② 選定基準
 搬送時間が短い直近の医療機関選定を前提とし、医療機関の受入可否状況や傷病者のかかりつけ医療機関の有無等も考慮

③ 伝達基準
 医療機関リストの区分に該当すると判断した症状等の情報等について優先して伝達

④ 受入医療機関を確保するための方策(例)
 コーディネーターによる調整

緊急度判定体系の構築像

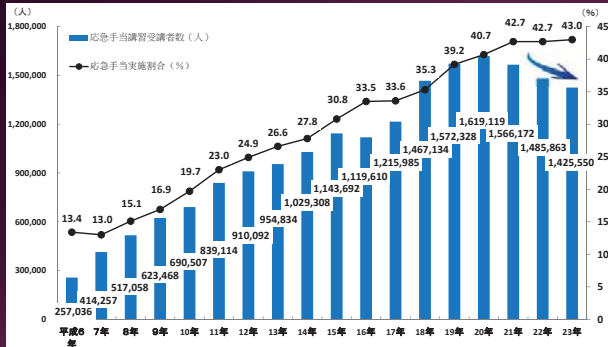


緊急度の定義

類型（緊急度）	定義
赤（緊急）	<ul style="list-style-type: none"> すでに生理学的に生命危機に瀕している病態。 病態が増悪傾向にあり、急激に悪化、急変する可能性のある病態。 ※痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮。 ※バイタルサイン異常、ひどい痛み、病態の増悪傾向、急変の可能性を総合的に考える。
黄（準緊急）	<ul style="list-style-type: none"> 2時間を目安とした時間経過が生命予後・機能予後に影響を及ぼす病態。 ※痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮
緑（低緊急）	<ul style="list-style-type: none"> 上記には該当しないが、診察が必要な病態。
白（非緊急）	<ul style="list-style-type: none"> 上記に該当せず、医療を必要としない状態。

消防庁：緊急度判定体系に関する検討会

応急手当受講者数とCPA傷病者への応急手当実施率の推移



- ◎ 応急手当実施率は増加も、応急手当受講者数は減少傾向
- 受講しやすい環境づくり：e-learning・分割型講習
- 受講者のすその拡大：受講対象年齢10歳以上

消防庁の取組

救命率の向上

救急医療を必要とする人に適切な応急処置、適切な医療機関を提供

実施基準に基づく救急搬送と受入れ

家庭・電話相談、消防機関・医療機関までの各段階で共有する緊急度判定体系の構築

病院前救護に関わる消防職員の教育の充実及び整備

◎ 消防法改正による、搬送と受入れの実施基準の策定の義務付け

◎ 救急活動における、ICTの活用による消防と医療の情報共有

◎ 家庭・電話相談等、病院前における緊急度判定体系の構築

◎ 救急隊等病院前救護に関わる消防職員の教育の充実 など

ご清聴ありがとうございました